

# ロボット手術の質向上

## 作業部会が初会合

道臨床工学技士会(室橋高男会長)は、会内に新設したロボット手術作業部会の初会合を札幌市で開き、ダヴィンチSi導入施設の臨床工学技士(CE)が、さらなる安全性向上へ取り組み状況を報告した。

北大病院は、手術室十七室のうち一室をロボット手術専用とし、機器トラブルがあれば手術室工

リア内で待機しているCEが駆けつける体制。手術部長をトップとする専門委員会が、運用指針や手術スケジュール策定、術後の問題点の検討、物品購入、診療科連携などを総合的に行っており、会議開催はCEが取り仕切っているという。

毎週金曜日を手術日と定めている函館五稜郭病院は、CEが前日に機器

を手術室に搬入の上、配置、配線接続、動作点検を実施。手術開始時に医師の指示でロールイオン、ペーシエントアームの位置確認や調整指示を担い、術中はペーシエントカートやモニターなどの調整、気腹開始操作、DVD録画確認、電気メ

し、術後は医師の指示に沿ってロールアウトのほか、機器の清拭、点検、移動まで行っている。

帯広厚生病院のCEの役割は▽機器のセッティングと点検▽電源供給配分と周辺機器の管理▽映像記録装置の設定▽保守点検、トラブル対応。手術室看護師との共同業務

として、非清潔野側のドレーピングやカメラスコープの調整、回復手術やLRPへの緊急移行、ペーシエントカートのドッキング、インストウルメント使用回数の確認を挙げた。

安全面への工夫として札幌大病院は、電源ケーブルを保護するジョイ



各施設の取り組みを紹介し、情報共有を図った

## 病棟口腔ケア徹底

### 歯科衛生士を常勤配置

函館市の高橋病院(高橋肇理事長・百七十九床)は、歯科衛生士を正職員として病棟に二人配置し、全入院患者に対して口腔ケアを実施することで、口腔内トラブルの減少につなげている。

回復期リハビリ病棟では脳卒中、心疾患、肺炎など加齢に伴う疾患が多く、口腔内トラブルに伴う食欲や活動量の低下が課題となっていた。

歯科衛生士の常勤化と

言語聴覚士のリハビリに よって、早期から口腔内環境改善に向けてのアプローチが可能となり、栄養状態の改善、運動機能や免疫力の向上を図っている。

二週間後に行う再評価では、発熱回数や誤嚥性肺炎の発症率の減少といったデータも得られているという。

病棟看護師への指導も行うことで、看護師もケアに参加し、口腔ケアの



北村和宏看護部長は効率的な維持に役立つとしている。

## 専門的な実践力養成

### 来年度からリハ研修プログラム

札幌大病院(平田公一院長・九百三十八床)は、理学療法士・作業療法士研修センター(石合純夫センター長)を開設。高度化する医療に臨み対応できるリハビリ専門職を育成する、「理学療法士・作業療法士研修プログラム」を開始する。

近年、リハビリテーションは対象とする疾病や障害の幅が広がり、臓器から、病態像の把握につながる各種評価方法、検査結果の解釈について学び直し希望者を対象とした研修は、新卒者や

作業療法士の養成課程を持つ環境を最大限に生かす。看護師からの情報提供をもとに病棟生活での問題点を整理するなど、他職種との連携も考慮した幅広いカリキュラムとなっている。

総合研修と、運動器障害、内部障害、小児・神経障害、高次脳機能障害の四コースで構成する専門研修の二種類を用意。研修生の経験や専門性に応じて、研修コーディネーターが個別プログラムを組み、研修期間は原則一年だが、研修内容によ

ントプロテクターを設置し、ケーブルに足をひっかけるときの防止している。過去の機器トラブルでは、イルミネーターを一度消した後、再度つける点灯せず、シス

テム再起動でも改善しなかったケース等を例示。機器のオリジナルチェックリストも紹介している。

会には総代理店担当者なども参加し、意見を交

換。橋本修一委員長(札幌大病院)は、「各施設の事例を基に、よりロボット手術の質や安全性を高めていきたい」と、三ヶ月おきに会合を開く方針だ。

## 病期単位リハ論議

### 来月に道PT学術大会

第六十四回道理学療法士で開かれる。道理学療法士は、病期単位でのリハビリテーションの重要性を論議する。道理学療法士は、病期単位でのリハビリテーションの重要性を論議する。道理学療法士は、病期単位でのリハビリテーションの重要性を論議する。